



えだわんだより

令和5年12月20日発行
横浜市立荏田東第一小学校
1月号

学校ホームページ



共に伸び、共に輝け、感謝・感動 しなやかえだわん



竜の年にふさわしく

学校長 熊谷 潤平

ときどき「校長室ポスト」にすてきなお手紙が届きます。必ず返事を書くようにしていますが、私が書いた返事にさらに返事をくれた1年生がいました。

校長せんせいへ

おてがみありがとうございます。かいてあったとおりに、あたらしい1ねんせいの手本になるのがたのしみです。わたしは、はるにさくチューリップをそだてるのがいちばんたのしいです。どうしてかという、あたらしい1ねんせいのえがおを見るのがたのしみだからです。

今1年生は、春に咲くチューリップを、心を込めて育てているのです。なんてほほえましく、すてきな手紙だろうと思います。言葉の力はもちろん、心の豊かさ・潤いも感じられ、うれしく思います。

手紙…といえば、「そろそろ年始の挨拶を葉書にしたための時期だなあ…」と思うたび、毎年のように考え込んでしまうことがあります。「ところで今年の干支は何だったかな…」ときに立ち止まって干支を思い出してみることもなく、あわただしく日々を送ってしまっている自分を反省しつつ、今どき風に、スマートフォンに小さな声で尋ねます。

「ヘイ…、今年、何どし？」

すると、即座にスマートフォンは答えます。

「今年（2023年）は卯年です。来年は辰年ですね。」

驚くかな、親切にも次の年のことまで教えてくれるとは。文明の利器は、どこまでも進歩していくのでしょうか。

ともあれ、2024年・令和6年は辰年（たつどし）とのこと。そういえば、十二支の中で、辰（竜）のみ、実在の動物ではなく、想像・伝説上の動物となっています。何だかとても不思議です。デジタル大辞泉で、「竜」を調べてみると、「1 想像上の動物。たつ。 2 すぐれた人物。英雄…」とあります。辰は、竜という意味だけでなく、「優れた人物」という意味もあるとは知りませんでした。

きっと2024年・令和6年は、えだわんの子どもたちが、ますます優れた人物に成長する、縁起の良い年になるのでしょう。

でも、肝心なことは、何をもってして「優れる」とするか、でしょう。再び辞書で「優れる」を調べると、「1 能力などが他よりぬきんでる。 2 よい状態である。」とありました。学力・体力・社会情動的コンピテンシー…等が、他と比べて抜き出るならば、それは立派なことであり、誇らしいことではあります。ただ、それが他との比較や結果「のみ」への意識だと、違和感を抱きます。他との比較もときには大事。結果も大事。でも、やっぱり物事に取り組む姿勢や過程が更に大事で、その姿勢・過程を「自分としてはよい状態であるなあ。」と肯定できるようであってほしいと願います。「優れる」とは「よい状態である」という認識は忘れずにいたいところです。

2月22日に予定されている学校教育報告会で詳しくお話しいたしますが、2023年、本校は、横浜市学力・学習状況調査において、全体的に顕著な向上が見られました。これは何より、子どもたちの日々の頑張りがあってのことでしょう。一方で、他者への共感性や思いやり、規律などの面に、課題・伸びしろが見て取れました。先に紹介した1年生の心温まる手紙に象徴されるような豊かさを、どうすれば更に育てていけるか、みんなで分析し、考えていかなければなりません。

2024年・令和6年は辰年・竜の年。「生きて働く知」はもちろんのこと、「豊かな心」も、「健やかな体」も、竜の年にふさわしく、一人一人、確かに成長している。そんな明るい年にしていきたいと思えます。